

# 改訂版:ロドリゲス『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用 —『エソポのハブラス』『伊曾保物語』との対比—

吉見 孝夫

金森 亜希・菊地 真由子・曳田 美那

(元北海道教育大学札幌校基礎学習開発専攻)

## 改訂にあたって

先に本誌第2号で「ロドリゲス『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用—『エソポのハブラス』『伊曾保物語』との対比—」を公にした。しかし、これは以下の不備を有することが判明した。

- ① 3条の脱漏があること。本稿の番号の24・46・54である。
  - ② 前稿の番号53(本稿の番号56)と一致する本文として『エソポのハブラス』『伊曾保物語』の両者を挙げたこと。これは『伊曾保物語』のみとすべきである。
  - ③ 前稿の番号87(本稿の番号90)で『伊曾保物語』の該当寓話を下巻32話としたこと。下巻32話にも類似の文があるが、ここは中巻28話とすべきである。
  - ④ 『伊曾保物語』からの引用を、第5種本に拠った『エソポのハブラス私注』の翻刻に採ったこと。『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用で『伊曾保物語』と共に通する文は、その第1種本と最も近い。従って引用は第1種本に基づくべきである。
- 以上は遠藤潤一氏のご教示による。遠藤氏の『邦訳二種伊曾保物語の原典的研究 正編』(風間書房、1983年)を読んでいる身であれば、指摘されるまでもなく当然気づくべき遺漏であった。前稿は文字通りの拙稿と言わざるを得ない。今回改めて前稿にこれらの修正を施した。お教えくださった遠藤氏にはお詫びと感謝とを申しあげる。

## I 『日本大文典』中のイソップ寓話

1604-1608年長崎において刊行されたロドリゲス(Ioão Rodriguez)『日本大文典(Arte da Lingoa de Iapam)』には、イソップ寓話から採った引用文がある。それらは、口語体の『エソポのハブラス』か文語体の仮名草子『伊曾保物語』かの該当箇所の表現とほぼ一致するが、必ずしも完全に同一ではない。この小論は、『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用文と、それに該当する『エソポのハブラス』または『伊曾保物語』中の文とを対比させるものである。

## II 『エソポのハブラス』『伊曾保物語』との対照表

『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用の、『エソポのハブラス』における該当箇所、『伊曾保物語』における該当寓話を示したのが次ページの表である。

### 【注記】

- ① 『日本大文典』の引用順に番号を付す。
- ② 『日本大文典』の掲載箇所のページを「( 15/65 )」のように示す。スラッシュ (/) の前の数字は『日本大文典』原本のページ、スラッシュの後のは土井忠生訳『ロドリゲス日本大文典』(三省堂、1955年3月)のページである。原本は和本の丁付けのように表裏が同じページ番号となっている。原本の裏ページは「16 v」のように「v」で示す。なお原本の49ページは「46」と誤っている。正しいページ付けに従う。原本では142ページから145ページに飛んでいるが、原本のページ付けに従う。また、土井訳本では505ページ8行目からが原本の139ページ裏に当たるとあるが、実際は506ページ7行目からが139ページ裏に相当する。
- ③ 『エソポのハブラス』の該当箇所のページ、行を「458-8／上12」のように示す。  
スラッシュ (/) の前がページ、行であり、スラッシュの後が寓話番号である。  
寓話番号のないのは、「エソポが生涯の物語略」の部分である。
- ④ 『伊曾保物語』の該当する寓話の巻次、寓話番号を「中25」のように示す。
- ⑤ 『日本大文典』の引用文とほぼ一致する本文を持つ例には網掛けを施す。

## III 『エソポのハブラス』『伊曾保物語』本文との対比

以下に、『日本大文典』の引用文と、それとほぼ一致する『エソポのハブラス』『伊曾保物語』の本文（IIの対照表で網掛けとなっている例）とを対比させて示す。

### 【注記】

- ① IIの対照表同様に『日本大文典』の引用順に番号を付す。
- ② 『日本大文典』中のイソップ寓話からの引用文を偶数ページに原文通りに記し、改行箇所を「/」で示す。
- ③ IIの対照表の注記②同様に『日本大文典』の掲載箇所のページを示す。
- ④ 引用文の下に土井訳『ロドリゲス日本大文典』に従い、漢字仮名交じりの翻字を付す。
- ⑤ 引用文に該当する『エソポのハブラス』または『伊曾保物語』中の文を奇数ページに記す。IIの対照表の注記③同様に『エソポのハブラス』にはカッコ内にページ、行、寓話番号を、『伊曾保物語』にはカッコ内に巻次と寓話番号を付す。
- ⑥ 『エソポのハブラス』からの引用は原本通りとし、改行箇所を「/」で示す。引用文の下に大塚光信『エソポのハブラス私注』(臨川書店、1983年3月)に従い、漢字

	大文典	エソポ	伊曾保
1	15/65	454-8／上12	中25
2	15/65	ナシ	上13
3	16v/72	477-23／下10	ナシ
4	16v/72	476-22／下9	ナシ
5	16v/72	417-17	上7
6	40v/166	ナシ	下17
7	40v/167	466-5／上24	下6
8	42/172	466-21／上24	下6
9	45v/183	ナシ	上13
10	45v/184	413-13	上1
11	46v/188	ナシ	下18
12	47v/193	438-6	中1
13	49/198	473-13／下5	ナシ
14	49v/200	474-11／下6	ナシ
15	49v/201	ナシ	下21
16	62v/246	479-3／下5	ナシ
17	84v/322	438-6	中1
18	89/338	415-10	上4
19	90v/344	443-19／上1	中11
20	94v/359	438-16	ナシ
21	95/361	432-17	上17
22	95/361	415-13	上4
23	95v/361	416-10	上5
24	101/381	429-6	上10
25	102/382	453-2／上11	中24
26	102/383	430-7	上11
27	102v/384	438-17	中1
28	117/429	422-7	ナシ
29	117/429	422-8	ナシ
30	117/429	442-16	中9
31	117/429	442-24	中9
32	117v/430	438-24	中1
33	118/432	470-3／下1	ナシ
34	118v/433	497-13／下38	ナシ
35	118v/434	425-4	ナシ
36	120/440	473-13／下5	ナシ
37	120v/441	413-6	上2
38	120v/442	419-15	上8
39	121/442	433-11	上18
40	121/443	415-1	上4
41	121/443	429-24	上11
42	122/446	409-19	ナシ
43	122/446	429-5	上10
44	122/446	410-18	ナシ
45	122/446	421-18	ナシ
46	122/447	451-8／上9	中22
47	122/447	424-17	ナシ
48	122v/449	459-10／上17	中30
49	122v/449	496-13／下37	ナシ
50	122v/449	502-20／下45	ナシ
51	122v/449	493-18／下33	ナシ
52	123/451	425-7	ナシ

	大文典	エソポ	伊曾保
53	123v/451	411-9	ナシ
54	123v/452	415-9	上4
55	124v/454	429-16	上11
56	124v/455	409-6	上1
57	124v/455	437-2	中2
58	124v/455	432-4	ナシ
59	124v/456	490-15／下30	下14
60	126v/462	431-6	上11
61	128v/468	422-18	ナシ
62	130/473	423-21	ナシ
63	131/477	443-1	中9
64	131/477	437-5	中2
65	132/481	438-19	中1
66	132/481	439-2	中1
67	132/482	422-2	ナシ
68	132v/482	ナシ	中40
69	132v/482	429-14	上10
70	133/484	409-13	上1
71	133/484	409-9	上1
72	133v/486	422-18	ナシ
73	133v/486	426-22	上9
74	139/505	441-13	中8
75	139/505	463-19／上21	中36
76	142v/518	445-15／上3	中13
77	142v/518	496-11／下37	ナシ
78	145/519	496-9／下37	ナシ
79	153v/548	441-13	中8
80	154/550	479-19／下21	ナシ
81	154/551	422-19	ナシ
82	154/552	422-3	ナシ
83	154v/553	430-18	上11
84	156v/560	425-9	中8
85	156v/560	435-3	上20
86	157/564	499-17／下41	中9
87	157/564	499-22／下41	中9
88	169/606	438-6	中1
89	189/676	ナシ	中17
90	189/676	ナシ	中28

仮名交じりの翻字を付す。

- ⑦ 『伊曾保物語』からの引用は、『日本古典文学大系 90 仮名草子集』の翻刻に従う。  
ただし、振り仮名は省略する場合もある。

- 1 Auogui negauacuua Xujinuo cudasareyocaxito mōxita. (15/65)  
(仰ぎ願はくは主人を下されよかしと申した。)
- 2 Auogui negauacu-/ua sanbuichiuo careni ataye, nocoriuo vareni tabecaxito yū. (15/65)  
(仰ぎ願はくは三分一を彼に与へ、残りを我に賜べかしと言ふ。)
- 3 Riōbōni tachivacareyru/ tocoroni,quitçunega yofocara coreuo mite futatçuno  
nacani vocareta/ fitçujiuo totte curōta. (16v/72)  
(両方に立別れて居る処に、狐がよそからこれを見て二つの中に置かれた羊を取  
って喰うた。) 注：土井訳「tachivacareteyru」とする。
- 4 Sō arutocoroye quitçune fono atari chicō ytaga,/ niuatorino acatçuqui vtōuo quijte faxitte  
quite, cono motoni yotte yū. (16v/72)  
(さうある処へ狐そのあたり近う居たが、鶏の曉歌ふを聞いて走って来て、木の  
下に寄つて言ふ。)
- 5 Arutoqui Xanto chinsuixite yru tocoroye, fitoga quite daicaino vxiuouo/ fitocuchi ni nomi  
tçucusaruru michi arōcato tō. (16v/72)  
(或時シャント沈醉してゐる処へ、人が来て大海の潮を一口に飲み尽くさるる道  
あらうかと問ふ。)
- 6 Xenzuru/ tocoro necono cubini suzuuo tçuquete voqui famberaba,yafuqu xinan-/to yū.  
(詮ずる所猫の首に鈴をつけて置き侍らば、やすくしなんといふ。)  
(40v/166)
- 7 Sono vuouo fucoxī atayeyo yejiquini naxitento iy quereba,&c. (40v/167)  
(その魚を少し与へよ餌食になしてんと言ひければ、云々。)
- 8 Quedamonouo yatoite coso mairame tote,/ cugani agarinu. (42/172)  
(獸をやとひてこそ参らめとて、陸に上がりぬ。)
- 9 Cano mo/no vreite iuaqu: vare xōgiquiuo arauasuto iyedomo, gofenua muriuo/ notamō nari.  
(かの者憂ひて曰く、われ正直をあらはすと雖も、御辺は無理を宣ふなり。)  
(45v/183)
- 10 Arōru fodono cotouoba catano gotoqu xiri fam-/beruto mōsu. (45v/184)  
(有らうる程の事をば型の如く知り侍ると申す。)

- 1 auogui neganacuua xujinuo cuda/fareyocaxito, mõxeba, (454-8／上12)  
(「……仰ぎ願はくは主人を下されよかし」と申せば、)
- 2 「……あはれ三分一をばかれにあたへ、残りをわれにたべかし」と云。(上13)
- 3 riõbõni tachiucarete yru/ tocoroni, qitçunega yofocara coreuo mite, futatçuno/ nacani vocareta fitçujiuo totte curðta. (477-23／下10)  
(両方に立ち別れて居るところに、狐が余所からこれを見て、二つの中に置かれた羊を取ってくらうた。)
- 4 Sõ aru/tocoroye qitçune fono atari chicõ ytaga, niuatorino acatçuqi vtõuo qijte, faxitte qite cono motoni yotte/ yûtaua: (476-22／下9)  
(さうある所へ、狐そのあたり近う居たが、鶏の曉歌ふを聞いて、走って来て、木の本に寄って言うたは、)
- 5 Arutoqi Xantho chinsui xite yraruru tocoroye, fito/ga qite daicaino vxiuouo fitocuchini nomi tçucufa-/ruru michiga arõcato tõni, (417-17)  
(ある時、シャント沈醉して居らるる所へ人が来て、「大海の潮を一口に飲み尽さるる道があらうか」と問ふに、)
- 6 「詮づる所、猫の首に鈴を付てをき侍らば、やすく知なん」といふ。(下17)
- 7 「其魚をすこしあたへよ。餌食になしてん」と云ければ、(下6)
- 8 「……けだものを雇ひてこそ参らめ」とて、<sup>くが</sup>陸にあがりぬ。(下6)
- 9 かの者愁へていはく、「我正直をあらはすといへども、御辺は無理をの給ふ也。… …」(上13)
- 10 「あらゆるほどの事をば形のかたごとく知り侍る」と申。(上1)

- 11 Cunxi taran mono yuye na-/qui yürannni quegarenaba, tachimachi cacaru fagiuo vqubexi.  
(46v/188)  
(君子たらん者故なきゆうらんに汚れなば、忽ちかかる恥をうくべし。)
- 12 Acudōniua iri-/yafuqu, jenniua irigataxi. (47v/193)  
(悪道には入り易く、善には入り難し。)
- 13 Mottomo vō-/xeua vomoqueredomo, vagamini totteua canai gataxi. (49/198)  
(尤も仰せは重けれども、わが身にとては叶ひ難し。)
- 14 Ixano ima-/madeno vadzuraino idequru fodono cotouoba mina yoquiyoquito  
mōsa-/ruredomo, vareua xifuruni touocarajito. (49v/200)  
(医者の今迄の患ひの出でくる程の事をば皆よきよきと申さるれども、われは死  
するに遠からじと。)
- 15 Aru micado nininno fitouo mexi idaxi/ tamōcoto ariqueri, ichininua yocuxin fucaqui mono  
nari, ima ichinin-/ua fitouo netamu cocoro fucaqui mono nari. (49v/201)  
(ある帝二人の人を召出し給ふ事ありけり、一人は慾心深きものなり、今一人は  
人をねたむ心深きものなり。)
- 16 Xendacujinno motoni ite mireba, iyemo firoqu, mamo vouoquiuo mite,& c. (62v/246)  
(洗濯人の許に行て見れば、家も広く、間も多きを見て、云々。)
- 17 Acudōni iriyafuqu, jenni irigataxi. (84v/322)  
(悪道に入り易く、善に入り難し。)
- 18 Nanto xite cono fentōniua voyobōzoto, vōquini varōta. (89/338)  
(何としてこの返答には及ばうぞと、大きに笑うた。)
- 19 Icadeca sōno tçumiuo nangi-/ua nogareōzo? (90v/344)  
(如何でかその罪を汝はのがれうぞ。)
- 20 Vareyori xitano mononi fōqueō xerareō yorimo camitaru fitoni ifame-/raruru cotouo  
yorconde majiuariuo naſu. (94v/359)  
(我より下の者に崇敬せられうよりも上たる人に諫めらるる事を喜んで交りをな  
す。)
- 21 Babiloniano cunino iquioi tani cotonī atta. (95/361)  
(バビロニヤの国の勢他に異にあった。)
- 22 Tada imano fuxinua itoyafui guigia. (95/361)  
(只今の不審はいと易い儀ぢや。)

- 11 君子たらん者、故なき淫乱にけがれなば、たちまちかゝる恥を受けべし。(下18)
- 12 悪道には入やすく、善人には入りがたし。(中1)
- 13 vō-/xeua mottomo naredomo, vagamini totteua canai gatai: (473-13／下5)  
(「仰せはもっともなれども、わが身にとてはかなひ難い。……」)
- 14 yxaua imamade de/quru fodono yamaiuoba mina yoioito iuaruredo/mo, miua faya  
xinuruni chicaito. (474-11／下6)  
(「医者は今まで出来るほどの病をば、皆よいよいと言はるれども、余ははや死  
ぬるに近い」と。) 注:『日本大文典』は文語体。
- 15 ある御門、二人の人を召出し給ふ事ありけり。一人は欲心深き物なり。いま一人  
は、人を嫉む心深き者なり。(下21)
- 16 xendacuninno motoni ytte mireba,/ iyemo firō, mamamo vouoiuo mite, (473-9／下5)  
(洗濯人のもとに行って見れば、家も広う、間々も多いを見て、)
- 17 悪道には入やすく、善人には入りがたし。(中1)
- 18 nattoxite cono fentōniua voyobōzoto vō-/qini varōta. (415-10)  
(「……何としてこの返答には及ばうぞ」と大きに笑うた。)
- 19 icadeca/ sono tçumiuo nanngiua nogareōzo? (443-19／上1)  
(「……いかでかその罪を汝はのがれうぞ?」)
- 20 vareyori xitano mononi lōqiō xerareō yorimo, ca-/mitaru fitoni ifameraruru cotoou  
yorocôde majiuia-/riuo naxe: (438-16)  
(……我より下の者に崇敬せられうよりも、上たる人に諫めらるることを喜う  
で、交りをなせ。……」)
- 21 Babiloniaua motoyori tai-/cocuto iy, chiriacuto iy, cunino iqiuoimo tanicotoni/ atte,  
(432-17)  
(バビロニヤは元より大国といひ、智略といひ、国の勢も他に異にあって、)
- 22 tada-/imano fuxinua itoyafui guigia: (415-13)  
(「……只今の不審は、いと易い義ぢや。……」)

- 23 Daiichino axij monouo côte coito guegiuo xerareta. (95v/361)  
(第一の悪いものを買って来いと下知をせられた。)
- 24 Buriacuuo mot-/te taburacasōniua xiqumaji. (101/381)  
(武略を以て誑かさうには如くまじ。)
- 25 Tçubame coreuo/ canaximiyōta. (102/382)  
(燕これを悲しみ合うた。)
- 26 Toriuia fayedzuriuo motte natçu/ no atçusauo nagusamu. (102/383)  
(鳥は囀りを以て夏の暑さを慰む。)
- 27 Camitaru fitoni ifamuru cotouo/ yorocobu. (102v/384)  
(上たる人に諫めらるる事を喜ぶ。)  
注：「ifamuru」は「ifameraruru」とあるべきところ。
- 28 Faracoso tattçurō. (117/429)  
(腹こそ立つつらう。)
- 29 sonatato varera yen coso tçuquitçurō. (117/429)  
(そなたと我等縁こそ尽きつらう。)
- 30 Varecoso micudzuto nari, fatçuru tomo, &c. (117/429)  
(われこそ水屑となり果つるとも、云々。)
- 31 Varecoso munaxü fatçurutomo, &c. (117/429)  
(われこそ空しう果つるとも、云々。)
- 32 Gocuacuno fitoni iquenuo nafunā: yamomeno tameniua fino fica-/riga cayette atato naruzo.  
(117v/430)  
(極悪の人に異見をなすな、病眼の為には日の光りが却って仇となるぞ。)
- 33 Cono niuatorifaye nai naraba, cafodo fuqeôniua vocofaremajij-/monouoto yüte, &c.  
(118/432)  
(この鶏さへないならば、かほど払暁には起されまじいものをと言うて、云々。)
- 34 Inochiuo tçugaruru vxio faye xocu xeraruru vyeua, maxite i-/uan, &c. (118v/433)  
(命をつがるる牛をさへ食せらるる上は、況していはん、云々。)
- 35 Cõxite irufaye farano tatçuni, vaga meno mayede betno tçuma-/uo motaxeteua arareô  
monoca? (118v/434)  
(かうして居るさへ腹の立つに、わが目の前で別の妻を持たせてはあられうもの  
か。)

- 23 daiichino axij/ monouo côte coito guegiuo xerarureba, (416-10)  
 (「……第一の悪い物を買って来い」と下知をせらるれば、)
- 24 buriacuvomotte taburacasō/niua xiqumajijo; (429-6)  
 (「……『武略をもって誑かさうにはしくまじい』と……」)
- 25 tçuba-/me coreuo canaximiyōta: (453-2／上 1 1)  
 (燕これを悲しみ合った。)
- 26 fayezzuri vomot-/te natçuno atçusauo nagusamemarasuru tocoroni, (430-7)  
 (「……輻りをもって夏の暑さを慰めまらすところに、……」)  
 注:『日本大文典』は文語体。
- 27 ca-/mitaru fitoni ifameraruru cotoou yorocôde …… (438-17)  
 (「……上たる人に諫めらることを喜うで、……」)
- 28 faracofo tattçurō : (422-7)  
 (腹こそ立つらう、)
- 29 fonatato vareua yen cofo tçuqi-/tçurō, (422-8)  
 (「……そなたと我は縁こそ尽きつらう。……」)
- 30 varecofo micuzzuto nari fatçurutomo, (442-16)  
 (「……我こそ<sup>みくづ</sup>津となり果つるとも、……」)
- 31 vare co/fo munaxǔ fatçurutomo, (442-24)  
 (「……我こそ空しう果つるとも、……」)
- 32 gocuacuno fitoni yqenuo našuna : yamomeno/ tameniuia fino ficariga cayette atani narazu:  
 (438-24)  
 (「……極悪の人に異見をなすな。病眼のためには、日の光がかへって仇にならう。」)
- 33 cano niuatori saye nainaraba, corefodo fuqeō niua/ vocofaremajij monouoto vomôte:  
 (470-3／下 1)  
 (「かの鶏さへないならば、これほど払暁には起されまじいものを」と思うて、)
- 34 inochiuo tçugaruru/ vxiusaye xocuxeraruru vyeua, maxiteyaiuan (497-13／下 3 8)  
 (「……命を継がるる牛をさへ食せらるる上は、ましてやいはん、……」)
- 35 cōxite irufaye farano tatçuni, va/ga meno mayede, betno tçumanadouo motaxeteua arareō  
 monoca? (425-4)  
 (「……かうして居るさへ腹の立つに、わが眼の前で、別の妻などを持たせてはあられうものか? ……」)

- 36 Vôxeua mottomo naredomo, vagamini totteua canaigatai. (120/440)  
(仰せは尤もなれども、わが身にとっては叶ひがたい。)
- 37 Soren i yotte xujinuo fajimete fôbaimo Efopoga fumbetno tocoro/uo mina fometato mōsu.  
(120v/441)  
(それによって主人を始めて傍輩もイソポが分別の所を皆褒めたと申す。)
- 38 Nangi coreuo arauafuni voiteua, fudaino tocorouo xamen xôzu. (120v/442)  
(汝これを表すに於いては、譜代の所を赦免せうす。)
- 39 Ima vtagô tocoromo naito vôxerareta. (121/442)  
(今疑ふ所もないと仰せられた。)
- 40 Linenni xôzuru tocorono sômocuua yaxinai fodatçuru coto naqueredomo, vôquini fanjô furu. (121/443)  
(自然に生ずる所の草木は養ひ育つる事なけれども、大きに繁昌する。)
- 41 Efopo noburu tocorono tatoyeniuia, aru finja inagouo torôzu-/rutote yuqu roxini voite xemiuo mitçuque, funauachi coreuo totte/ corosôto furu tocorode, cano xemino mōsu yôua,&c. (121/443)  
(イソポ述ぶる所の譬には、ある貧者螽をとらうずるとて行く路次に於いて蟬を見つけ、即ちこれを取って殺さうとする所で、かの蟬の申すやうは、云々。)
- 42 Xujin Efopoga vyeuo vomouaruru yôua, &c. (122/446)  
(主人イソポが上を思はるるやうは、云々。)
- 43 Vôcamega cocoroni vomôyôua, &c. (122/446)  
(狼が心に思ふやうは、云々。)
- 44 Tagaini mefajiqui xite yûyôua, &c. (122/446)  
(互に目弾きして言ふやうは、云々。)
- 45 Cocorono vchini ichidanto fucai gotaixetno fodouo yorocobu tei/ga miyete gozaru.  
(122/446)  
(心の中に一段と深い御大切の程を喜ぶ体が見えてござる。)
- 46 Narenarexij tiede attani, &c. (122/447)  
(馴々しい体であったに、云々。)

- 36 vō-/xeua mottomo naredomo, vagamini totteua canai/gatai: (473-13／下5)  
 (「仰せはもっともなれども、わが身にとってはかなひ難い。……」)
- 37 Soreniyotte xujinuo fajimete f(ō)b(ai)/mo Esopoga funbetno tocorouo mina fometato/mōfū. (413-6)  
 (それによって、主人を始めて傍輩も、エソポが分別のところを皆讃めたと申す。)
- 38 nangi coreuo arauafuni voiteua, fudaino to/corouo xamen xite, (419-15)  
 (「汝これを現すにおいては、普代のところを赦免して、……」)
- 39 imaua vta/gō tocoromo naito vōxerare, (433-11)  
 (「今は疑ふところもない」と仰せられ、)
- 40 jinenni xōzuru tocorono sōmocuua yaxinai soda/tçuru cotoga naqeredomo, vōqini fanjō xi,  
 (415-1)  
 (「自然に生ずるところの草木は、養ひ育つことがなけれども、大きに繁昌し、  
 ……」)
- 41 Esopoga noburu to/corono tatoyeniu: arufinja inagouo torōzuruto yu/qu roxini voite  
 xemiuo mitçuqe, funauachi coreuo/ totte corofšto furu tocorode, cano xemino mōfuyō/ua:  
 (429-24)  
 (エソポが述ぶるところの譬へには、「ある貧者螽を取らうすると行く路次において、蟬を見付け、すなはちこれを取って殺さうとするところで、かの蟬の申すやうは、……」)
- 42 xujin Esopoga vyeuo vomouaruru yō-/ua: (409-19)  
 (主人エソポが上を思はるるやうは、)
- 43 vōcame/ga cocoroni vomōyōua, (429-5)  
 (「……狼が心に思ふやうは……」)
- 44 tagaini mefajiqi xite/ yū yōua: (410-18)  
 (互に目はじきして言ふやうは、)
- 45 cocorono vchi/nia ychidanto fucaigotaixetno fodouo yorocobu/ teiga miyete gozattato  
 mōxita. (421-18)  
 (「……心の中には、一段と深い御大切の程を喜ぶ体が、見えてござった」と申した。)
- 46 narenarexij teide attaniyotte, (451-8／上9)  
 (馴れ馴れしい体であったによって)

- 47 Quexicaranu facanadōguno caiyō. (122/447)  
(怪しからぬ肴道具の買ひ様。)
- 48 Xixivō furiaguete mirutocorou manacoto voboxij atarioo xita-/tacani funda. (122v/449)  
(獅子王振上げて見る所を眼と覚しい辺を強かに踏んだ。)
- 49 Vchicaraua, tadaima voquiagattato voboxij coyede, tasoto tad/zunuru. (122v/449)  
(内からは、只今起上ったと覚しい声で、誰そと尋ねる。)
- 50 Yorodzuno quedamonono vomimaini mairaretato voboxüte, go-/zadocoroye itta axiatoua aredomo, deta axiatoua fitotçumo miye-/neba, vobotçucanō zonzuru. (122v/449)  
(万づの獣の御見舞に参られたと覚しうて、御座所へ入った足跡はあれども、出た足跡は一つも見えねば、覚束なう存ずる。)
- 51 Nanitoxita xidaidebaxi gozaruzo? (122v/449)  
(何とした次第ではしござるぞ。)
- 52 Tada iqueto iyfamani torumonomo toriayezu, faxirigidameite iyen'i cayeru. (123/451)  
(ただ行けと言ひ様に、取るものも取り敢へず、走りぢだめいて家に帰る。)
- 53 Sore chōchacu xeito iytçuqueraruru fodocofo are, tçuye bōuo vot-/totte nifannin fodo tachicacari tachimachi chōchacu xōto suru. (123v/451)  
(それ打擲せいと言ひつけらるる程こそあれ、杖・棒をおつ取って二三人程立ちかかり忽ち打擲せうとする。)
- 54 Nōnin Efopou mite arefodo iyaxū tçutanai mide nanto xite cono/ fentōniua voyobōzo?  
(123v/452)  
(農人イソポを見てあれ程賤しう拙い身で何としてこの返答には及ばうぞ。)
- 55 Efopo fodono Lidiano cunini macaritçuqui, &c. (124v/454)  
(イソポ程なうリヂヤの国に罷着き、云々。)
- 56 Sarufodonu Europano vchi, &c. (124v/455)  
(去程にエウロパの中、云々。)
- 57 Varambe idzucuno fodoni cano gozöyeiuoba arözoto iyeba. (124v/455)  
(童いづくの程にかの御造営をばあらうぞと言へば。)

- 47 qexicaranu facanadōguno/ caiyōzoto ayaximureba, (424-17)  
(「……けしからぬ肴道具の買ひ様ぞ」と怪しむれば、)
- 48 xixi-/vō furiaguete mirutocorou manacoto voboxij ata-/riuo chicarani macaxete xitatacani fumeba, (459-10／上 1 7)  
(獅子王振り上げて見るところを、眼と覚しいあたりを力に任せて、したたかに踏めば、)
- 49 vchicara ta-/daima voqi agattato voboxij coyede, tafoto tazzunu/reba, (496-13／下 3 7)  
(中から只今起き上ったとおぼしい声で、「たそ」と尋ねれば、)
- 50 yorozzuno qedamonono vomimai/ni mairaretatoua voboxüte, gozadocoroye yutta axi/atoua aredomo, deta axiatoua fitotçumo miyeneba,/ vobotçucanō zonzuruto fenji xita.  
(502-20／下 4 5)  
(「……万の獣の、お見舞に参られたとはおぼしうて、御座所へ入った足跡はあれども、出た足跡は一つも見えねば、おぼつかなう存ずる」と返事した。)
- 51 nanitoxita xifaidebaxi gozaruzo, (493-18／下 3 3)  
(「……何とした子細でばしござるぞ、……」)
- 52 tada iqeto iyfamani toru-/monomo toriayezu, faxiri gidameite iyen'i cayeri (425-7)  
(「……ただ行け」と言ひさまに、取るものも取りあへず、走りぢだめいて家に帰り、)
- 53 fore chōchacu/ xeito iytçuqeraruru fodocofoare, tçuye bōuo vottot/te nifannin fodo tachicacari, tachimachi chōchacu/ xôto furuni nozonde, (411-9)  
(「……それ打擲せい」と言ひ付けらるる程こそあれ、杖・棒をおっ取つて二三人ほどたち掛り、たちまち打擲せうとするに臨んで、)
- 54 nōnin Efopou mite arefodo iyaxü tçuta-/nai mide, nattoxite cono fentõniua voyobōzoto vō-/qini varōta. (415-9)  
(農人エソポを見て、「あれほど卑しう拙い身で、何としてこの返答には及ばうぞ」と大きに笑うた。)
- 55 Efopo fodonō Lidiano cunini macaritçuqi, (429-16)  
(エソポほどなうリヂヤの国にまかり着き、)
- 56 去程に、えうらうはのうち、(上 1)
- 57 varambe izzucuno fodoni/ cano gozöyeiuoba arōzoto iyeba, (437-2)  
(童「いづくの程に、かの御造営をばあらうぞ」と言へば、)

- 58 Ando xita arisamaua macoton i tatoyeuo toruni tameximo nai fo-/doni attato mōsu.  
 (124v/455)  
 (安堵した有様は誠に譬を取るに例もない程にあったと申す。)
- 59 Vomô mamani nôde noch, &c. (124v/456)  
 (思ふままに呑うで後、云々。)
- 60 Auogui negauacuua cano tocoroye vóxe caquerareta mitçuqui-/monouo yurufaxerareba, &c.  
 (126v/462)  
 (仰ぎ願はくはかの所へ仰せかけられた貢物を赦させられれば、云々。)
- 61 Yumetomo, vtçutçutomo voboyenu monocana! (128v/468)  
 (夢とも、現とも覚えぬものかな。)
- 62 Sarebacofo voquiquiare, vaga ayamarideua nacattaua. (130/473)  
 (さればこそお聞きあれ、わが誤ではなかつたは。)
- 63 Babiloniato Egiptono fitobito vareuo fucô aixerareta. (131/477)  
 (バビロニヤとエジットの人々我を深う愛せられた。)
- 64 Ixito, tçuchitou facobaxerarei. (131/477)  
 (石と、土とを運ばせられい。)
- 65 Tani moraite atato naruzo. (132/481)  
 (他に洩らいて仇となるぞ。)
- 66 Bonninua iquenuo vquete jenninto naruzo . (132/481)  
 (凡人は異見を受けて善人となるぞ。)
- 67 Cayôno fitono imaua tçumato tanôdemo, nanini xôzo? (132/482)  
 (かやうの人の今は夫と頼うでも、何にせうぞ。)
- 68 Guefaino mito xite quemmon cõqueno fitoto arasõcoto nacare. (132v/482)  
 (下輩の身として権門高家の人と争ふ事なけれ。)
- 69 Cano chocuxito tçurete, &c. (132v/482)  
 (かの勅使と連れて、云々。)
- 70 Cubiyugami, xei fiquiqu, axi nagaqu xite, mata fitoxi. (133/484)  
 (首ゆがみ、背低く、足長くして、また太し。)
- 71 fono jidai cono Esopo fodo fitoni fugurete minicuqui mono naqui/ga gotoqu , fono chiye faicacu , mata narabu fito naxi . fono noch/ mata cano Esoponi , nangiuia icanaru monozoto toitamayeba , &c. (133/484)  
 (その時代この伊曾保程人に勝れて醜き者なきが如く、その智慧才覚、また並ぶ人なし。その後またかの伊曾保に、汝は如何なる者ぞと問ひ給へば、云々。)
- 72 Yumetomo, vtçutçutomo, voboyenu monocana ! (133v/486)  
 (夢とも、現とも、覚えぬものかな。)
- 73 Yabureta ixôuo quiru cun-/ximo ari, varayano vchini quininno zaxeraruru cotomo ari.  
 (133v/486)  
 (破れた衣裳を着る君子もあり、藁屋の中に貴人の座せらるる事もあり。)

- 58 ando xita/ arisamaua, macotoni tatoyeuo toruni tameximo nai/ fodoni attato mōfu. (432-4)  
 (安堵した有様は、眞に譬へを取るに例ためし もないほどにあつたと申す。)
- 59 vomômamani nôde nochi, (490-15／下30)  
 (思ふままに飲うで後、)
- 60 auogui negauacuua cano to/coroye vóxecaquerareta mitçuqimonouo yurufaxerare/ba,  
 (431-6)  
 (「……仰ぎ願はくは、かの所へ仰せ掛けられた貢物を赦させられれば、……」)
- 61 yumetomo vtçutçutomo voboyenu monocana! (422-18)  
 (「……夢とも現とも覚えぬものかな！……」)
- 62 farebacoso voqiqiare, vaga ayamarideua nacat/tau, (423-21)  
 (「さればこそ、お聞きあれ。わが誤りではなかつたは。……」)
- 63 Babiloniato, Egyptono fito/bito vareuo fucõ aixerarureba, (443-1)  
 (「……バビロニヤとエヂットの人々我を深う愛せらるれば、……」)
- 64 ixito, tçuchi touo facobaxerareito iyeba, (437-5)  
 (「……石と土とを運ばせられい」と言へば、)
- 65 tani moraite atato na-/ruzo: (438-19)  
 (「……他に洩らいて仇となるぞ。……」)
- 66 bonninua yqenuo vqete jen-/nintomo naruzo. (439-2)  
 (「……凡人は異見を受けて善人ともなるぞ。」)
- 67 conoyõna fitouo imaua tçumato tanôdemo nanini/ xôzo? (422-2)  
 (「……このやうな人を今は夫と頼うでも何にせうぞ？……」)
- 68 その下輩の身として、人とあらそふ事なけれ。(中40)
- 69 cano chocuxito tçurete (429-14)  
 (かの勅使と連れて、)
- 70 首ゆがみ、せい低く、足長くしてふとし。(上1)
- 71 その時代、此いそほ、人にすぐれてみにくき物なきがごとく、その上、才覚又ならぶ人なし。……その後又いそほに、「汝はいかなる物ぞ」と問ひ給へば、(上1)
- 72 yumetomo vtçutçutomo voboyenu monocana! (422-18)  
 (「……夢とも現とも覚えぬものかな！……」)
- 73 yabureta/ yxðuo qita cunximo ari, varayano vchini qininno/ zaxeraruru cotomo arumonoto iyeba, (426-22)  
 (「……破れた衣裳を服た君子もあり、藁屋の中に貴人の坐せらるることもあるもの」と言へば、)

- 74 Cano cunideno cotodomou cuuaxū fōmon sureba, &c. (139/505)  
(かの国での事共を委しう奏聞すれば、云々。)
- 75 Farauo itameōtono fiōgiōni funda. (139/505)  
(腹を痛めうとの評定に済んだ。)
- 76 Cauano mannacade fucunda xiximurano cague midzuni vtçuttauo/ mireba, &c. (142v/518)  
(川の真中で含んだ肉村の影水にうつったを見れば、云々。)
- 77 Tocouo furicataguete aru quanno nacaye irete voita. (142v/518)  
(とこを振りかたげて或棺の中へ入れて置いた。)
- 78 Cono cuxeuo nauosōzoto anjivadzurō nacani, mata vō-/zaqueuo nomi jengomo xiranu.  
(145/519)  
(この癖を直さうぞと案じ煩ふ中に、又大酒を飲み前後も知らぬ。)
- 79 Cono cunideno cotodomou cuuaxū fōmon sureba. (153v/548)  
(この国での事共を委しう奏聞すれば。)
- 80 Icani fugurete quetacaqui itçucuxinaru voncataye mōsu bequi co-/to ari. (154/550)  
(如何に勝れて気高きいつくしなる御方へ申すべき事あり。)
- 81 Betniua tarenimo yaranu monouoto iuaruredomo, &c. (154/551)  
(別には誰にもやらぬものをと言はるれども、云々。)
- 82 Totte noite cono vramiuo xiraxôzuru monouoto vomô cocoro-/ga tçuita. (154/552)  
(取って退いてこの怨みを知らせうするものをと思ふ心がついた。)
- 83 Cono michiuo voxiyuru yori foca, betno vocaximo gozanai. (154v/553)  
(この道を教ゆるより外、別の犯しもござない。)
- 84 Vaga mada iquite iru vchi/ ni, betno tçumauoba nanto xite vomochiarōzo? (156v/560)  
(わがまだ生きてゐるうちに、別の妻をば何としてお持ちあらうぞ。)
- 85 Mada zommei tçucamatçuru cotomo arōzuruto fōsureba, &c. (156v/560)  
(まだ存命仕る事もあらうすると奏すれば、云々。)
- 86 Idzuremo buguuo foroye, cotomo vobitataxij caxxenni natta, &c. (157/564)  
(何れも武具を揃へ、事も夥しい合戦になった、云々。)
- 87 Sono tatacaito saquebino votoua cotomo guiōfanni atta tocorode. (157/564)  
(その戦と叫びの音は事もげふさんにあったところで。)
- 88 Acudōni iriyafuqu, jenni irigataxi. (169/606)  
(悪道に入り易く、善に入り難し。)
- 89 Xixivōtoua faichi fuguretaru monouo tatōru nari. (189/676)  
(獅子王とは才智勝れたる者を喻ふる也。)
- 90 Fitouo anadoru toquimba care mata vonoreuo anadoru mono nari. (189/676)  
(人を侮るときんば彼又己を侮る者也。)

- 74 cano cunideno cotodomou cuuaxū fōmon sureba, (441-13)  
(かの国での事どもをくはしう奏聞すれば、)
- 75 faraou itameōtono fiōguini funde, (463-19／上 2 1)  
(「……腹を痛めう」との評議にすんで、)
- 76 cauano mannacade fucunda xiximurano cague-/ga mizzuno soconi vtçuttauo mireba ,  
(445-15／上 3)  
(川の真中で、含んだ肉の影が水の底に映ったを見れば、)
- 77 yoifuxita tocorouo furicataguete aru quāno nacaye/ irete voite, (496-11／下 3 7)  
(（酔ひ伏したところをふり担げて、ある棺の中へ入れて置いて、）
- 78 cono cuxeuo nauofōzoto anjivaz/zurō nacani, mata vōzaqeuo nomi , jengomo xirazu,  
(496-9／下 3 7)  
(「……この癖を直さうぞ」と案じ煩ふなかに、また大酒を飲み、前後も知らず)
- 79 cano cunideno cotodomou cuuaxū fōmon sureba, (441-13)  
(かの国でも事どもをくはしう奏聞すれば、)
- 80 icani fugurete qetacai yosouoi naru vocataye mōsōzu/ru cotoga aru: (479-19／下 2 1)  
(「いかに、すぐれて氣高い粧ひなるお方へ申さうずることがある。……」)
- 81 betniua tare/nimo yaranu monouoto iuaruredomo, (422-19)  
(「……別には誰にもやらぬものを」と言はるれども、)
- 82 tottenoite cono vramiuo vomoiraxôzurumo/nouoto vomô cocoroga tçuita. (422-3)  
(「……取って退いて、この恨みを思ひ知らせうするものを」と思ふ心が付いた。)
- 83 cono michiuo voxiyuru yori foca, betno vocaxi-/mo gozanai: (430-18)  
(「……この道を教ゆる外、別の犯しもござない。……」)
- 84 vaga mada iqite yru vchini betno tçuma/uoba nantoxite vomochiarōzo? (425-9)  
(「……わがまだ生きて居る中に、別の妻をば何としてお持ちあらうぞ?……」)
- 85 mada zonmei tçuca-/matçurucotomo arōzuruto fōsureba, (435-3)  
(「……まだ存命仕することもあらうする」と奏すれば、)
- 86 Izzu-/remo buguuo foroye, cotomo vobitataxij caxxen/ni natte, (499-17／下 4 1)  
(いづれも武具を揃へ、こともおびたたしい合戦になって、)
- 87 fono tatacaito faqebi/no votoua cotomo gueōfanni atta tocorode, (499-22／下 4 1)  
(その戦ひと叫びの音は、ことも業山にあつたところで、)
- 88 悪道には入やすく、善人には入りがたし。(中 1)
- 89 獅子王とは、才知儀しかる者をたとふるなり。(中 1 7)
- 90 人をあなづる時は、かれ又をのれをあなづるものなり。(中 2 8)